

令和6年4月22日

市政記者クラブ 様

名古屋市美術館 担当：井口、魚住

電話：212-0003

美術館特別展「生誕 130 年記念 北川民次展ーメキシコから日本へ」の開催について

このたび、みだしの特別展を下記のとおり開催しますので、ぜひご周知いただきますようお願いいたします。

記

1 概要

北川民次（1894-1989）の約 30 年ぶりの回顧展です。1920-30 年代のメキシコで画家・美術教育者として活動した北川民次。帰国後は、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。本展では、絵画作品約 70 点をはじめ約 180 点の作品と資料によって、北川がメキシコで学び日本へ帰国後も貫いてきた芸術への信念を再考します。洋画家・壁画家・絵本制作者・美術教育者など多彩な側面をもつ作家の実像に迫る展覧会です。

2 会期

令和6年6月29日（土）～9月8日（日）（62日間）

3 主催

名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、中日新聞社、日本経済新聞社、テレビ愛知

4 観覧料

一般 1,500 円（1,300 円）、高大生 900 円（700 円）、中学生以下無料

（ ）内は前売または 20 名以上の団体料金

5 本展の特長・見どころ

（1）約 30 年ぶりの大規模な回顧展

1996 年に開催されてから約 30 年ぶりの大規模な回顧展となる本展覧会。東海地方をはじめ、宮城、新潟、栃木、愛媛など、全国各地に所在している作品をまとめて見ることが出来る貴重な機会です。

（2）北川民次の多彩な活動を紹介

洋画家、壁画家、絵本作家、そして美術教育者など、様々な方面で活躍した、北川民次。本展では多様な作品と資料から、まだ十分に知られていない北川民次の魅力を紹介します。

（3）メキシコの精神を汲んだ国際的な作家

北川はメキシコで様々な作家と交流しながら自らの創造性を育みました。同時代のメキシコで活動した画家ルフィーノ・タマヨや写真家ティナ・モドッティ、北川と親交のあった藤田嗣治などの作品もあわせて紹介し、メキシコと日本の架け橋となった作家の姿に着目します。